



ガハテ村通信

篠山ナマステ会 兵庫県篠山市住山420 TEL (079) 595-1365 振替口座 00930-6-29629

生きるとは分かち合うこと

PHD運動の父 岩村 昇先生逝去



二〇〇〇年一〇月 ネパールタンセンにて

「PHD運動」の創始者 岩村昇先生がお亡くなりになりました。

岩村先生がネパールでの十八年間の医療体験をもとに一九八一年に提唱された「PHD運動」は、国際協力で大切な物や金ではなく、P（平和）とH（健康）を担うD（人づくり）であると、自立と参画を基調にネパールをはじめアジアの多くの国から研修生を招き入れました。

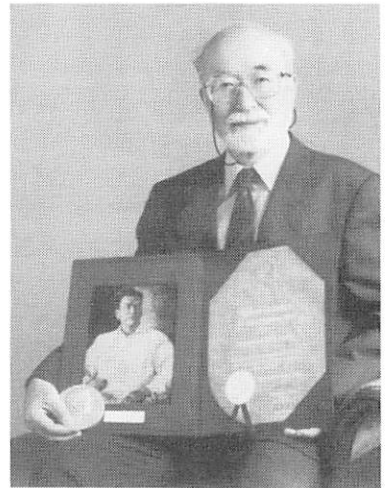
その運動に共鳴した篠山の仲間たちが「農」を見つめる道場として「たんば農文塾」を設立。空き家になっていた萱葺きの民家を借り受け、多くのボランティアの皆さんの参加で改修、岩村先生を中心にしてアジアの研修生と共に合宿をしながら農業のありようを学んできました。

その学びの中から、第一期研修生の巴拉ト・ピスタ氏が、帰国後立ち上げたネパールの生活改善運動「SSS」をサポートする形で「篠山ナマステ会」が結成されました。そして、山村のガハテ村で小学校の建設・運営を支援することを通して、岩村先生の志を受継ぎながら、これからの地域づくりや、自分の生き方探しの営みを続けてきました。

今、篠山ナマステ会には百名を越す方々が会員としてのこの運動に共鳴し、市内の小・中・高校生たちと一緒にあって、募金や交流活動にご協力いただいています。

もう岩村先生と直接お会いすることは出来ませんが、先生はいつまでも天国のイエス様のみもとから、私たちの心に点じられた愛のともし火の行方を、温かく見守っていて下さることでしょう。

時代に抵抗する力



岩村 昇 博士

マグサイサイ賞 受賞記念
1993. 8. 31

岩村 昇

PHDの活動を皆さんに呼びかけて二十年がたちましたが、世界の状況は決してよくなったとはいえません。むしろ、厳しくなったところもあります。研修生の村の問題も少なくはありませんが、むしろ、日本のこれからが心配です。このままでは、滅んでしまうのではないかとも思います。子が親を、親が子を殺すなど、命の尊さが失われた社会になってきています。いい学校、一流企業だけが評価される社会、共稼ぎが必要となる暮らし、老人が取り残される社会、こういったことに気付いた人が声をあげなければいけません。その解決のヒントはアジアや南太平洋の草の根の人たちの質素な暮らしにあると思います。質素な暮らしは心を豊かにします。しかし、日本の中にも今の世の中のおかしさに気付いて、もうひとつの生き方を始めている人たちがいます。例えば町から村に入り、農業を始めている人たちがいます。その多くは有機農業をしておられます。その環境に育つ子どもは違う価値観を持つことができるのではないのでしょうか。日本にやってくる研修生はこういう方々に出会い、日本の変化を学んでもらう、農業のすばらしさ、尊さを再認識してもらおうことが大切だと思えます。

時代を先取りする人は、いつも少数派です。時代を追いかけていてはだめです。時代に抵抗する力、哲学を持たなければいけません。これが私の二十周年を迎えるの思いです。(PHD協会二十周年を迎えるのメッセージより)

ネパール市民講座

写真展とビデオ上映会を開催

篠山市民センター 平成十七年十一月二十四日～二十九日
 市立中央図書館 平成十八年一月十一日～十五日

写真展

セティディビ小学校で学ぶ子どもたちの様子をSSS通信員ビシユニユ・マニ・ネパール氏が撮影してネガを送ってくれました。

黒板以外の教具も飾りもない質素な教室で、活き活きと学ぶ子どもたちの真剣な眼差しが伝わってきます。



ビデオ上映会

今ネパールでは、マオイストと称する武装ゲリラが反政府闘争を繰り返しています。

彼らと政府軍との接点にあって、苦悩する学校の先生や村人たち、戦乱に巻き込まれて命を落とした少女と、その母の嘆きなどを取材したドキュメンタリーのテープを入手しました。平和に慣れきった日本人には、想像もできないような民衆の苦しみに、胸が痛みます。



セティディビ小学校改善計画まとまる



セティディビ小学校では、関係者で委員会を組織して、今後の学校運営計画をまとめ、全文40ページに及ぶ計画書をカブレ郡教育委員会に提出し、学校整備への要望と、今後の教育方針を発表しました。

篠山ナマステ会では、現地語で書かれた計画書を、神戸市在住のリザール・ビナさんに依頼して翻訳していただきました。大変膨大な資料のうち、前文の部分を要約してお伝えします。



(学校運営計画書の表紙)

学校長挨拶

全世界と比べてみても、わが国ネパールは多方面で遅れています。特に教育に関しては、未だに多くの子どもが学校に行くことが出来ません。ネパール政府は、小学校までの教育をネパール全体に義務付けようとしながらも、けわしい山村が多く、道路の整備も進んでいないだけに学校のない地域が多い。また、形としての学校があっても、先生の不足、設備、文房具などの不足が深刻な問題です。

そこで、本校は運よく篠山ナマステ会の温かい支援を受け、より良い学校を目指しています。本校の全ての情報をこの資料に述べてあります。また、「学校改善計画」を作成するにあたって、協力いただいた方々に心から感謝します。この計画書に述べた資金を得るために、ネパール政府に働きかけ、この目標を達成できるように頑張りたいと思います。

篠山ナマステ会の協力を心から感謝します。

セティディビ小学校

校長 ナバラジュ サブコタ

学校の場所

カブレ郡マハデブスタン農村開発機構6区ガハテ村

地理的要素

周りを山に囲まれたこの地域が大自然そのものです。道路整備が進んでおらず、雨季の季節以外、ガタガタの道路に車が走る。北側にインドラパチ川が流れている。

気 候

夏も暑くなく、冬もそれほど寒くはない。とても住みやすい気候である。

教育の現状

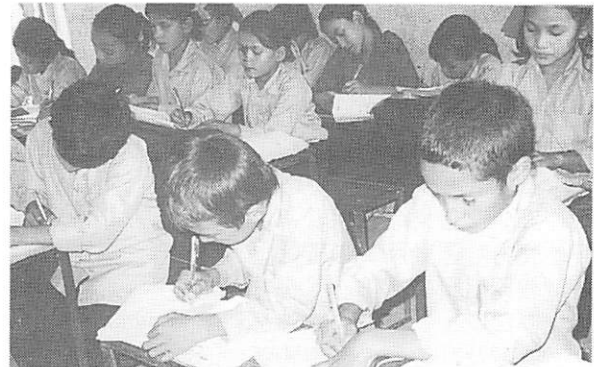
本校区内においては、男性36.06%、女性30.9%が読み書きできる。

社会的状況

本活動地域の中に多種の民族が混在している。中でもタマン族が一番多く、それ以外にブラーマン、ステリ、ネワール、カミ、ダマイなどの民族がいる。

学校の歴史

この区では1994年に教室数3つの学校が設立されたが、1999年6月、バラト・ビスタ氏の指導の下に日本の篠山ナマステ会のメンバーらが現地調査を行い、その支援によって1999年12月、コンクリートと煉瓦の丈夫な学校が出来、二人の先生と一人のガードマンを雇うことになった。2000年8月、篠山ナマステ会は増える生徒に考慮し、一人の女の先生を増やすことが出来た。その他、学校に必要な様々なものを提供して、2002年には2階に2つの教室を増築し、必要な備品を購入することが出来た。



(どの子も一生懸命です)

学校改善計画 (SIP)

学校の教育及び物理的発展を促すために、学校改善計画を立ち上げた。この学校が面倒を見る範囲には、120戸の家がある。就学適齢児童数607人で、女子310人、男子297人。殆どの生徒はSIP区域内からであるが、少数の生徒は区域外の学校へ通ったり、また区域外から通ったりしている。

改善計画の目的

- 1 学校の教育及び地理的改善計画を計画的に行う。
- 2 経済支援の目標を示す。
- 3 各教育レベル(クラス)に合った教え方をする。
- 4 全ての児童に少なくとも小学校までの教育を受けさせる。
- 5 合格率を上げる。
- 6 生徒の学校中退率及び再入学率を減らす。
- 7 学校に行っていない児童に積極的に就学指導をする。

モデルスクールへのSSS事業計画

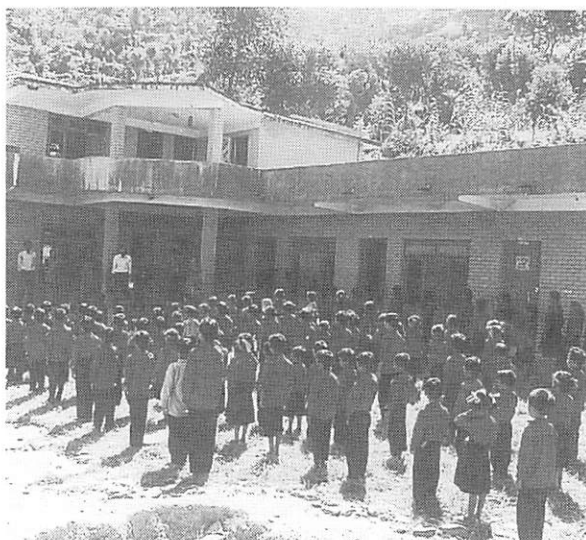
セティディビ小学校の改善計画（前ページ参照）を受けて、SSSではモデルスクールとしての事業計画に組み込んで、通信員ビシュニュ・マニ・ネパール氏のメールを通じて送ってきました。

資金的な裏づけのない、かなり理想的な願望も入っているようですが、篠山ナマステ会として、この計画に対してどのような支援が出来るか、ガハテ村民の経済的自立と自覚を促すために、何が出来るか、何をすべきか、十分な議論が大切であると考えています。

最近、学校運営委員会はセティディビ小学校をモデルスクールにするための事業計画を策定しました。この計画はうまく実行に移され、セティディビ小学校とガハテ村はそれぞれ本当にモデルスクール、模範集落に変わるであろうということに、私たちは十分な自信を持っています。日本の篠山ナマステ会の支援によって、セティディビ小学校とガハテ村はそれぞれのモデル事例として、その成長の途上にあります。篠山ナマステ会によって提供された援助は、将来にわたってその地域社会や児童、保護者の心の中に記憶され、いつまでも残されるでありましょう。

この地域のモデルスクールとしてセティディビ小学校を育てるため、SSSによって策定された事業計画は以下の通りです。

- 1 現在、学校で働いている教員への援助。
- 2 学校に図書館を設置。
- 3 飲料水を児童のために提供。
- 4 セティディビ小学校で初等教育を終え、他の学校で中等教育を継続している学生に、奨学金の支給。
- 5 十分な教材の確保。
- 6 十分な運動用具の確保。
- 7 教育旅行の実施。
- 8 プロジェクターの設備と利用。
- 9 児童及び教員の健康診断と治療を部分的にも実施。
- 10 学校における書類整備の体系化。
- 11 保護者のために、教育に係る啓発と意見交換会の企画。



（学校の朝は朝礼から始まります）

以上の計画を実行に移すために、SSSは自らがいくらかの資金を提供し、さらに資金を確保するために、他の関係機関に要請を行うことになってまいります。

セティディビ小学校の現状を維持し、上述した計画と目的を実行・達成するために、篠山ナマステ会は大きな役割を果たして来ました。この点に関して、私たちは常に篠山ナマステ会の論評と示唆を大いに期待しております。篠山ナマステ会がその胎動期にスタートさせた学校及び地域社会開発計画が、必要とされる皆さんのより大きな支援によって、自立した大人の階段に成長していくであろう。という大きな希望を私たちは持っています。（後略）

◆ ご寄付有難うございました ◆

タバタ美容室 田端俊典氏(篠山市河原町)
から亡父のご遺志として金10万円
ご寄贈をいただきました。

前回ご報告以後募金をいただいた方々（敬称略）

菊澤道子、武部宣男、土曜会（代表 高橋義敬）
久馬肇子、藤木千皓、下吉富久子、小嶋英毅、
勝井きみ子、横山茂子。

篠山ナマステ会は、会の趣旨、目的に賛同して年間5,000円の会費を払って会員になって頂いた方の会費によって、活動の経費をまかっています。

また、ネパールへの支援は、篤志家の寄付金や、協賛団体の募金活動、カンパ、会の事業として行う街頭募金、ネパールグッズの売り上げ利益などで充当しています。

ネパールの子どもたちへの支援を通じて、いのちの大切さを学び、国際理解の輪が広がって行くことを願っています。